

乙訓圏域障がい者自立支援協議会  
令和5年度 第4回就労支援部会 会議録

日時 令和6年1月12日(金)  
福祉就労から一般就労に向けた学習会 10:00~11:40  
就労支援部会 11:50~12:40

場所 乙訓保健所 講堂

出席者 12名

しょうがい者就業・生活支援センターアイリス、乙訓障害者支援事業所連絡協議会(2)、京都府立向日が丘支援学校(2)、京都七条公共職業安定所障害者職業相談室、乙訓地域商工会広域連携協議会、乙訓の障がい者福祉を進める連絡会、乙訓保健所福祉課、向日市障がい者支援課(1)、長岡京市障がい福祉課、大山崎町福祉課

欠席者 3名

就労移行支援事業所ステージ、乙訓やよい会、向日市障がい者支援課(1)

事務局 3名

傍聴者 0名

配布資料 ・次第

### 会議概要

#### 1 福祉就労から一般就労に向けた学習会

参加者	就労支援部会委員	12名
	その他	22名
	事務局	3名

#### 2 福祉就労から一般就労に向けた学習会の振り返り

部会長 ・今回の学習会の目的は就労支援事業所の情報不足を補い、就労促進になれば良いというところだったと思う。就労継続支援B型(以下、就Bという。)の事業所、計画相談をしている事業所の職員がたくさん参加してくれた。

・時間が押して、質問ができなかった方もたくさんいたようだった。どこの機関が、どういうことをやって、どういう風に、どう使うと良いのかが、似たようなことをされているためわかりにくいところがあった。その辺りがもう少しわかれば良かったという感想を持っておられる方が多い印象だった。感想等あれば聞かせていただきたい。

- 委員 ・どこに相談に行くかは知っている知識の中で行かれるので、皆がどこに行くのかそれぞれ考える手立てになったように思う。最後にアンケートをとれば良かったように思った。
- 委員 ・色々な方の説明を聞いて、支援があつての就労なんだということを理解した。何らかの支援は絶対に必要という認識のもとに動いてくれていることがわかった。
- 委員 ・全般的な知識を知ってもらうことも大事だが、深める作業も必要だと思う。研修会の後半にグループワークをするのも良いと思う。架空の事例をもとにどこに相談をしたら良いのか等、具体的なグループワークをすればおもしろいように感じた。
- ・圏域に就労支援 A 型と B 型の事業所が増えてきている。定員に満たない事業所が増えてきているように思う。その辺りの実態調査は必要だと思っている。
- 部会長 ・機関、制度があることは知っているが具体的に何をしてくれるのかがわかりにくいところがあった。その辺の整理ができたようには思っている。
- ・今日来ていただいた方にはアンケートを取らせていただき、集約したいと思う。

### 3 今年度の庁内実習の報告・振り返り

- 副部会長・申し込みされた方の実習は全て終了している。今回、追加募集もしたが、何故、人が集まらなかったのか振り返りをしたい。事業所での周知方法は掲示や利用者に意思確認をされた事業所もあれば、事業所内で周知できていないところもあった。庁内実習の案内に対象者は一般就労を目指す方とあるため、ハードルが高いと感じる方が多かった。今後、メールではなく一件ずつ訪問して丁寧に説明し、事業所等の意向を確認したうえで対応する必要があるように感じた。
- ・また、事務系作業だけではなく、体を動かすような実習もさせてもらいたい等、幅広く実習内容を 考えてほしいという意見もあった。
- 部会長 ・庁内実習ができたいきさつもある。事務系の作業が少ないため、事務系の実習先を作る必要があるということがあった。その辺りも丁寧に案内していった方が良いのかもしれない。

### 4 乙訓障がい者就労支援ネットワーク「たけのこ」から

- 副部会長・ミニ企業交流会を 11 月に行った。12 名の参加があった。20 人定員だったが、定員割れしたことについて、「たけのこ」でも現状把握と課題整理、「たけのこ」として何をすべきなのか等をもう一度考えていく必要があるのではないかという意見をいただいた。どの方に行っていただくのかという整理や、まず支援機関の方に就労のイメージを持っていただく等、何か他の方法がないかどうか、来週の事務局会議で次年度について諮りたいと思っている。

### 5 今年度の活動と次年度に向けて

- 部会長 ・前年度から引き継いだ課題のところでは庁内実習について、実習先の拡大をどうしていくか、一般就労に向けた促進の動きを強めていくということが今年度の課題にあがっていたと思う。その点に伴い、小冊子を作って今回の学習会を行い、庁内実習については今回集まり方が少なかったが広報の仕方等を振り返り、続けて利用していただくための仕掛けをしないといけないというのが今の話になっていると思う。
- ・今後、就労支援部会を設置するのか、しないのか。設置するのであれば、解決できていなかった

た課題を次年度に持ち越す整理をしないといけない。

・今回、報酬改定が入っている。就労選択支援や就Bに関しては工賃があがっている事業所は支援員が多い事業所が多いので、そこを算定する仕組みを作りたいということがあったり、障がいのある方の就労環境の変化がある。その点を就労支援部会で扱っていくことになるのかなと思っている。今年度、やろうと思ってできなかったこと等、意見はあるだろうか。

副部会長・庁内実習については障がい福祉の窓口だけではなく、他部署にも伝えていくという課題があったと思う。その点についてはどこに聞けば良いのか等、ルートの確認はできたと思うが、それを拡充するにしても実習者のところと共同で考えていかないといけないところがある。そこが今年度広げていくところが実際には見合わなかったところと、実習者の掘り起こしがうまくできなかったという課題は残ったと思っている。

部会長・庁内実習を次年度以降も実施していくために部会を残すのであれば、庁内実習をプロジェクトに持っていても良いと思っている。それ以外に今年度やろうと思ってできなかったこと、課題としてあがってきそうなことがあり、部会として取り組むべきこととして確認できるのであれば部会でやっていく方向になると思う。

委員・圏域の事業所の定員数と所属している方の基本的なデータの収集はしておいた方が良いと思う。行政の方で2市1町に存在している事業所の数と定員数、実際の稼働率ぐらいを調査してもらえた方が良いのではと思っている。地域の行政は把握しているのだろうか。支援学校では圏域の事業所プラスお世話になっている事業所に電話をし、調査をしている。支援学校だけが知っていて良いものでもないし、圏域として共有できるような情報を持った方が就労支援というところの起点ができるのではないかと思う。実数の把握まではしていただいた方が就労支援部会にも「たけのこ」にも良いと思う。

委員・児童発達支援プロジェクトの中で放課後等デイサービス事業所等の基本情報を集めておられたと思うが、そのイメージだろうか。委員で分担して、実際に事業所がどのような療育や職員体制なのか等、聞きに行っていたと思う。そんな感じだろうか。

部会長・進路を考える時にそういうものがあつた方が良いと思う。相談をやっている立場からすれば、その人にとってどんな事業所が良いかと考えた時にヒントになる。知っている事業所ならどういふところかわかるのだが、全然知らないところだと思いつかないところがある。

委員・相談支援専門員や地域生活支援センターの方等は色んな事業所を知っていないと紹介できないと思う。その役に立てたら良いと思う。

委員・フォーマットがあれば支援学校の卒業生で京都市内等に通っている子達の事業所も承諾をいただければ追加して載せていくこともできる。圏域の働く傾向が見えてきたら、発展性があるのではないかと思っている。

部会長・圏域で障がい者の働く場として一般就労、福祉就労関係なく、どういう特色があり、どういう人達がいてというような実態把握は一旦した方が良いのではないかという意見だと思う。それが無いが故に進路選択や就職の手立てが停滞している部分があるのではないか。そういうものがあれば促進につながるのではないかという意見だったと思う。庁内実習の話の中で、乙訓圏域の方はひとつの事業所に長くおられて、移ろうとする方が少なく、流れがないのがこの乙訓圏域の特徴のように思う。フォーマットのようなものがないから、そういう流れがないのかなとも思

うので、そういうものがあれば良いと思う。

・今年度の部会でできていない協議等があれば、部会長まで教えていただきたい。他にも意見等があれば1月22日の月曜日、12時までにメールで送っていただきたい。

## 6 その他

次回 2月16日(金) 10:00～ 乙訓保健所 講堂